

自治会40年史

作新台



作新台自治会

目 次

はじめに	2
年表（千葉市作新台自治会地域沿革史）	3
自治会が継続して取り組んでいる重要事項	19
参考資料	20
会館の建て替え	20
自治会組織の法人化	20
夏祭りの復活	21
文化祭	22
敬老会	23
組織図	24
各部紹介	25
サークル一覧表	28
歴代自治会会長	29
作新台自治会略図	30
地区・班一覧	31

編集後記

はじめに

私達の住む街「作新台」は昭和45年に産声をあげました。その当時の主な道路はすべて砂利道で、風が吹けば土ぼこりが空をおおい、廃石を道路に敷くことが自治会の第一の仕事でありました。

あの頃から40年、現在は生活施設も整い、快適な生活が何とか享受できる、私達の愛する町「ふるさと作新台」として生まれ変わりました。その間、幾多の先人・先輩方の並々ならぬご努力の賜であることは筆舌に尽くし得ません。

これらの歴史の経過について、過ぎ去った過去を記録にとどめ、自治会活動を通して更なる発展を期していきたいと考えます。

編集に当っては、残された多くの資料や、人の記憶を頼りに自治会活動に参加された先輩の方にお聞きしながら完成したものです。

この『作新台——自治会40年史』が、これからの作新台の発展に少しでも参考となり、多くの方の目にとまれば編集に携わった者として、これにすぐる幸はありません。

平成22年4月吉日

作新台自治会 会長 高橋 實

年表（作新台自治会地域沿革史）

まえがき

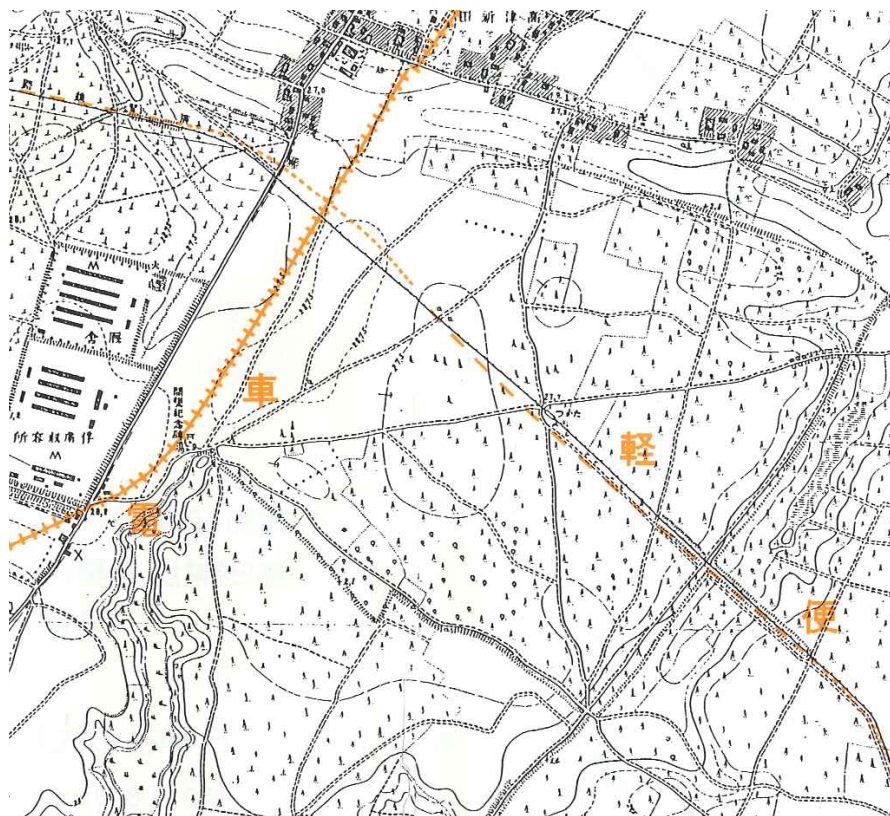
戦後の混乱から抜け出して、政治・経済の急激な変化の緒についたばかりの時期では、多くの地方で劇的な変化はあったと思いますが、当作新台地域でも、日本の各地で起こったであろう町づくりの見本のような出来事がありました。

幸いにして、当地では、昭和40年頃の混乱の時期から平成22年の現在に至るまでの約40年の間に三代にわたるすぐれた自治会長に恵まれて、初期の舗装道路が一つもなく、ガス・水道・下水排水設備、小学校もない、ただ畑地を分譲したばかりの仮住宅地的な状態から現在に見るような、町としての一応の体裁をなせるようになりました。

自治会館には、いろいろな趣味をもった多くの会員の人がサークルを作って出入りし、ふれ合いの場所として交流がはかられています。

1,600世帯を超える大きな自治会、外見だけではなくて内容的にも「おらが町」として、ほこれるところまで来たように思われます。

これでもういいという訳ではなくて、これからも改革・改善をして、みんなが楽しく過ごせる町づくりに努めたいと思いますが、これまでのことを振り返って記録しておくことも、後日、何らかの参考になるかも知れないと思ってまとめてみることにしました。内容は過去の記録と役員の方の口述から得たもので、多少の差異はあるかも知れませんがご容赦下さい。



大正6年頃の作新台地域
作新小学校20周年記念『わた
したちのさくしん』より

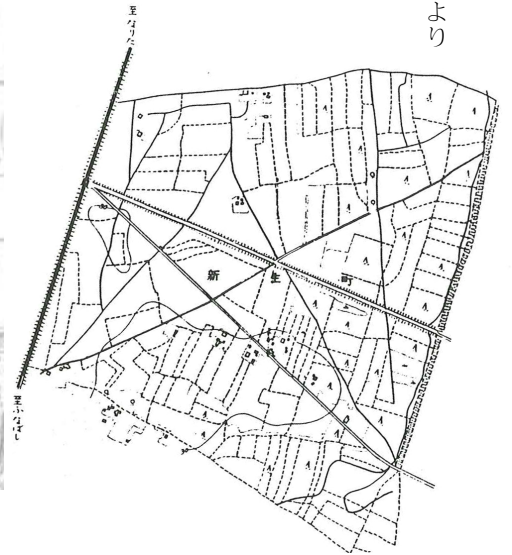
西 曆	年 号	事 項
	旧幕末時代	徳川幕府の馬の放牧地であった 当時の遺跡が今でも2か所（八千代市及び柏井町の隣接地）に残っている。
	明治時代	明治の初め名主中臺武左エ門が政府の許可を得て開墾したので、この地域は永い間畑地であった。春日神社の境内にその顕彰碑が建っている。
	終戦前後	耕作者として当地に入植した人々の内、途中で転出した人もあったが、その他の人々は地域の草分けとして引き続き現在も居住している。
	昭和29年以降	新市制施行の際、所属する市に関して関係者の間で意見が分かれ、当地域は千葉と習志野の両市に交錯して分属されることになり、そのため永い間地域の発展が遅れたが、それでも転入者が徐々に増えてきた。
1965年	昭和40年9月	最初の家庭用電話が開通 故塚田善人氏その他有志の人々の尽力により初めて当地の家庭に電話が開通した。 旧新生町は、電話を即開通できない特別地域のため、当地までのケーブル・電柱に関する費用は、受益者負担で漸く開通の運びとなりました。加入者は単独でなく、2軒共用する電話でした。（1軒が使用しているときは、もう1軒は使用できません）そして徐々に加入数も増加して共同電話も解消していった。
1968年	昭和43年5月	上水道工事に着手 上水道（県水）については、43年5月頃故萩原寛輔氏の提唱により、当時の県会議員と協力して運動し、昭和44年10月に完成した。 長作町北給水組合設立 会 長 故萩原 寛輔 副会長 故塚田 善人 会 計 染谷 染蔵・故須田 幸男 理 事 小倉 武夫他20名 以上の各氏



春日神社境内記念碑



昭和35年頃の作新台の地図
作新小学校20周年記念『わたしたちのさくしん』より



1969年	昭和44年10月	<p>習志野市から千葉市へ</p> <p>当地域に点在する習志野市に属する土地が、全部千葉市に移管され、住民全員が千葉市民になった。そこで新田義幸氏らにより、長作自治会・習志野市の新生自治会・第2自治会の合併が提案されたが、最終的に新生自治会と第2自治会は同意したが、合併は中止となってしまった。</p> <p>京成踏切（実叅）から作新台を経て、八千代台に至る道路舗装</p> <p>故萩原寛輔氏（当時の北自治会長）が極力千葉市当局に運動した結果実現した。</p>
1970年	昭和45年4月	<p>下水道工事に着手</p> <p>下水道については、45年4月に運動を開始し地形上流末が八千代市になることから千葉・八千代の両市議会議員の協力のもと運動を展開した。千葉市長や担当課長に対し再三にわたって請願し、最終的に市長に対し故塚田善人氏・故仲野喜一氏・故長谷川清氏・尾崎光明氏・小倉武夫氏の5氏が立ち会い了承を得た。全域に亘って施行され、昭和58年8月を最後に作新台自治会の下水工事は全域が完成した。</p> <p>下水促進に伴う懇談会設置</p> <p>メンバー 故塚田 善人・故金森 快二 故樋口 一郎・故長谷川 清・故仲野 喜一・ 尾崎 光明・小倉 武夫 以上の各氏</p>
	昭和45年8月	<p>作新台自治会 誕生</p> <p>不調になっていた合併問題は、漸く有志の同意を得、本年3月より有志が将来の発展を考え尽力され、近隣の長作北自治会・習志野市の新生自治会・第2自治会の3つが合併し、住民アンケートの結果、長作町の「作」と新生町の「新」で名称が「作新台」に決定した。会員数501名・地域数15で作新台自治会が誕生し、初代会長に故萩原寛輔氏が選出された。（当時の会費は月額100円であった。）</p>

1970年		準備委員 長作北自治会 鴻巣正男・中江一隆 河野達二・榊 茂・新田義幸 新生自治会 田中 茂・故金森快二 (第2自治会も含む) 故仲野喜一・渡辺秀男 故長谷川清 以上の各氏
	昭和45年11月	高砂会（老人会）結成 現在は、会員数50名を有しその活動は、高齢者の中核的存在で多様化しているが、後継者の育成にも力を入れている。



高砂会会員

1971年	昭和46年6月	若潮会（現青年部）結成 (詳細は参考資料)
	昭和46年10月	子供会（現児童部）結成 (詳細は参考資料)
	昭和46年12月	東京ガスの配給 初めに作新台2・3丁目に配給され、14地区が最後に昭和56年3月をもってほぼ全家庭に導入された。その間、故中川修平氏・尾崎光明氏らが尽力された。
1972年	昭和47年8月	婦人部 結成 全婦人が話し合った結果 総婦人数 610人 投票数 533票 賛成 335票 (62.9%) の実績をもって自治会承認の婦人部ができた。 (詳細は参考資料)

若潮会夏祭り



婦人部バス旅行



	<p>昭和47年11月</p>	<p>自治会館建設</p> <p>昭和47年4月自治会館建設が承認された。</p> <table border="0"> <tr> <td>建設費</td> <td>土地代</td> <td>330万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>建築費</td> <td>345万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>雑費</td> <td>24万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>計</td> <td>709万円</td> </tr> <tr> <td>財源は市から補助金</td> <td></td> <td>125万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>借入金</td> <td>520万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>(2年間で返済)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>会費</td> <td>64万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>計</td> <td>709万円</td> </tr> </table> <p>昭和47年11月竣工式を挙行し、尾崎光明氏・小倉武夫氏が表彰された。尾崎光明氏には、会館敷地50坪を相場の半額で提供し、更にあとから3.5坪を無償で寄付された。</p> <p>小倉武夫氏については、当時自治会予算がひっ迫していて、会館建設予算が少なく、限られた資金の中市価の60%相当であったが、心よく引き受けて頂き完成された。</p>	建設費	土地代	330万円		建築費	345万円		雑費	24万円		計	709万円	財源は市から補助金		125万円		借入金	520万円			(2年間で返済)		会費	64万円		計	709万円
建設費	土地代	330万円																											
	建築費	345万円																											
	雑費	24万円																											
	計	709万円																											
財源は市から補助金		125万円																											
	借入金	520万円																											
		(2年間で返済)																											
	会費	64万円																											
	計	709万円																											



1973年	昭和48年1月	交通安全協会作新台分会（現交通部）結成 （詳細は参考資料）
	昭和48年6月	第4地区2班 京成線脇道道路 開通
1974年	昭和49年2月	第10地区・第11地区添いの道路舗装される
	昭和49年6月	春日神社から作新台交番まで道路舗装される
1976年	昭和51年4月	<p>千葉市立作新小学校 開校</p> <p>昭和49年5月 作新小学校新設運動開始 尾崎光明氏から学校用地として土地を提供してもよいとの表明を基礎に同年10月対策協議会が発足した。故萩原寛輔氏・故長谷川清氏らが中心となって、用地の買収に専念したが、一部地主の同意を得られず困難を極めたが、最終的に尾崎光明氏のご厚意により耕作権が放棄され昭和50年8月26日買収が成立した。また作新小学校の敷地買収に当たっても耕作権を放棄し、さらに尾崎邸の角から学校入口までの約200mにわたって1m拡幅した部分を無償提供し協力していただいた。校名については、全家庭の無記名投票の結果を考慮し、作新小学校とすることで教育委員会は了承した。昭和51年4月作新小学校は開校を迎えて、地元で待望の小学校が誕生した。</p> <p>新設校等対策協議会設立</p>

		京成ガードから作新小学校北角まで道路舗装される 現作新台交番前に信号機設置
	昭和51年6月	長作駐在所（現作新台交番）新設 元長作本村にあった駐在所が移転してきた。 丸吉商店前（現ローソン100）に信号機設置
1977年	昭和52年5月	作新小学校地区社会体育振興会 結成
	昭和52年11月	第10地区内道路舗装される 橋本幹生氏の提唱による
1979年	昭和54年4月	千葉市立天戸中学校 開校 第7・8地区内道路舗装される
	昭和54年8月	住居標示実施 (町名が正式に作新台と認定される) 昭和45年8月以来、故長谷川清氏が市当局に対して実施を要請していたが、昭和51年9月3日に故荒木市長に直接要望書を提出して強く実施を要望したところ、市長も了承して昭和54年8月1日に現在の作新台1～3丁目だけ実施された。 当初、市当局は作新台の場合は、いまだ畑が多く散在し、町としての形態は丁目をふるまでには至っていないとの見解でした。故長谷川清氏は再三再四に亘って数年にかけ市に要請してきましたが、漸く市は重い腰を上げて了承し実現の運びとなりました。 作新台は地番が不揃いであったが、丁目がふられすっきりとした地番となりました。 花見川（メイン）道路以南の地域は、人口密度が低い理由で今回は実施から外された。
	昭和54年10月	第14地区内道路舗装される 故中川修平氏が主となって尽力
	昭和54年12月	パール楽器の寄付により4地区5班の角に押しボタン式信号機設置される ケーヨーホームセンターの寄付により12地区交差点に押しボタン式信号機設置される
1981年	昭和56年3月	萩原寛輔自治会会長 逝去（享年 72歳） 当地で永く建設業を営むかたわら、その円満な人柄と

		豊富な人脈を活用して、市長はじめ関係当局・並びに市会議員と協力して、未開地だった当地域の生活施設を長谷川清副会長とペアを組んで、次々と実現された。一番困難な時代の会長として、その功績は高く評価された。 家庭用ガス（東京ガス）全家庭に入る
	昭和56年4月	自治会会長 長谷川清氏 就任
	昭和56年5月	天戸中学校地区青少年育成委員会 結成
1982年	昭和57年4月	太鼓クラブ結成・承認 (平2・4 作新漣太鼓と命名) 会員数 約50名、自治会行事を中心として対外的にも活動。 中田茂氏がリーダーとなり、子供達の健全育成にも貢献している。
1983年	昭和58年3月	春日神社から京成ガード間道路舗装される
	昭和58年4月	千葉市連絡協議会第35地区連絡協議会結成 (第11地区連から分離独立) 作新台子供会育成連絡会 結成
	昭和58年8月	下水道工事第8期をもって全家庭完了
1984年	昭和59年11月	総務部内に事務局設置 (詳細は参考資料)

作新漣太鼓



1985年	昭和60年5月	作新台公園 開園
1986年	昭和61年3月	千葉作新台郵便局 開局
1987年	昭和62年3月	作新台全域で住居標示実施完了 数年前より当地域の早期実施について運動を続けてきた結果漸く実現した。 尚実施区域は作新小通学区域全域（一部を除き）に及んだ。
	昭和62年6月	交番の名称が変わる 全体会議で、全会一致で「長作駐在所」から「作新台交番」と変更するよう千葉西警察署長あて要望書を提出した結果実現した。
1988年	昭和63年2月	新しい地区が続々誕生 現在の16地区に続き17地区・18地区、平成8年には13地区の北東よりに19地区が誕生した。
	昭和63年3月	待望の公共下水道工事はじまる 地域住民の永い間の念願だった公共下水道（生の雑排水）工事のための調査が、花見川スイミングクラブ～作新台交番間で開始された。工事完成には数年の時間がかかるとの事であったが、平成7年にメイン通りの東側が先ず完了し、各家庭で個々の工事が行われた。西側についても順次開通する運びとなり、生活施設工事の大きな山を越えることになった。
	昭和63年9月	盆踊りの復活策を検討する委員会が設置される (詳細は参考資料)



夏祭り盆踊り

1988年	昭和63年10月	<p>住宅地内の砂利道側溝つき完全舗装化すすむ</p> <p>この頃住宅地内私道は大半が砂利道で側溝もなく、風が吹くと砂ぼこりで困っていたが、10地区を皮切りに2地区、更に5地区と徐々に舗装化が進んだ。</p> <p>今日では、一部を除き、全域にわたって舗装化が実現した。</p>
1989年	平成元年3月	<p>花見川道路が都市計画道路として緑地帯(コブシの木)つきで完成</p>

作新台メイン通り



1990年	平成2年3月	<p>長谷川清自治会長 逝去（享年 86歳）</p> <p>長谷川会長は、作新台自治会結成以来一貫して地域活動の中心的役割を果され、強力なリーダーシップと卓越した行政知識を駆使され、千葉市役所を始め関係各機関に対して、日参し働きかけを行い、町の近代化に向けた生活施設を整備され、今日の住みよい町づくりに大きく貢献された。</p> <p>その当時、兎や狸の住む原野が先人のご努力のお陰で今日快適な毎日が送れることを、改めて痛感する次第です。</p> <p>自治会では「自治会葬」として葬儀を執行し、偉大な功績を称え感謝した。</p> <p>長谷川会長のご遺志は、今も脈々として自治会組織運営に生かされ、未来に向けて生き続けるものと確信する。</p> <p>なおご遺族から自治会に対して、生前のご交誼に感謝し自治会発展の一助にして欲しいと金100万円が寄贈された。</p>
-------	--------	---

1990年	平成2年4月	<p>自治会会長 高橋實氏 就任</p> <p>長谷川清会長死去に伴う後任会長選挙が実施された。結果は次のとおり。</p> <table data-bbox="603 389 1075 640"> <tr> <td>有権者数</td> <td>1,334</td> </tr> <tr> <td>投票数</td> <td>1,233 (92.4%)</td> </tr> <tr> <td>信任票</td> <td>1,216 (98.62%)</td> </tr> <tr> <td>不信任票</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>無効</td> <td>1</td> </tr> </table> <p>以上で新自治会長に高橋實氏が就任された。</p>	有権者数	1,334	投票数	1,233 (92.4%)	信任票	1,216 (98.62%)	不信任票	16	無効	1
有権者数	1,334											
投票数	1,233 (92.4%)											
信任票	1,216 (98.62%)											
不信任票	16											
無効	1											
	平成2年6月	<p>自治会がお手伝いする葬儀マニュアルが出来る</p> <p>会員に不幸があった場合、施主の依頼によって自治会がお手伝いすることが相当数あり、地区長は1年交替が実態のため、役員は大変苦勞した。このためマニュアルを作成し誰でもできるようにした。また葬儀は自治会館を使用することができ、更に当時の福祉部長尾崎光明氏の献身的なご尽力によって多くの利用者から大変感謝された。</p> <p>その後管内にセレモニーホールが出来る話が出て、業者と自治会との話し合いも平成10年に終了し営業の運びとなった。</p> <p>現在は、大半の葬儀はセレモニーホールを利用することになり、自治会の役割も時代の流れとともに変化した。</p>										



平成4年敬老会

1990年	平成2年9月	第1回敬老会 作新小学校体育館にて開催 (詳細は参考資料)
1992年	平成4年9月	自治会館建て替え工事完了 (総工費2,915万円) (詳細は参考資料)
1993年	平成5年3月	自治会承認各種サークル 続々誕生 (詳細は参考資料)
1994年	平成6年11月	自治会主催 文化祭スタート (詳細は参考資料)
1995年	平成7年2月	阪神淡路大震災 会員からの義援金として100万円余り贈る。
	平成7年3月	自治会主催 防災講演会・同訓練実施 (花見川消防署)
	平成7年10月	作新小地区秋季大運動会で団体優勝 昭和51年から作新小地区社会体育振興会主催による大運動会が、作新小管内の10自治会により毎年開催されている。 作新台自治会は、第1回の昭和51年に初優勝して以来、2度目の優勝となった。 当自治会からは、千葉市体育協会の理事として高橋國雄氏が運動会をはじめ、ウォーキング・グランドゴルフなど地域の体育振興の場で、その先頭に立って頑張っている。



1995年	平成7年11月	千葉市立作新小学校 創立20周年記念 賛助金 700,000円贈る
1996年	平成8年1月	自治会法人化作業に着手 (詳細は参考資料)
	平成8年3月	公共下水道工事 管内ほぼ完了
1998年	平成10年2月	自治会組織の法人化(平成10年2月22日) 約2年に亘って検討してきた法人化作業が完了し、臨時総会を開催。全員一致で法人化を承認
	平成10年3月	20地区 入会承認
	平成10年7月	21地区 入会承認
	平成10年9月	千葉市立天戸中学校 創立20周年記念 賛助金 864,000円贈る
1999年	平成11年3月	自治会法人化 千葉市議会にて承認される (詳細は参考資料)
2001年	平成13年5月	「自治防災組織」結成のための専門委員会設置
	平成13年10月	22地区 入会承認
2002年	平成14年2月	「自主防災組織」承認 関連する「規約」「防災委員」「備蓄品」等の検討着手
	平成14年3月	消防署前に信号機設置される 4月6日 渡り初め式 実施
	平成14年11月	防災倉庫(森長公園内)設置 6.6㎡費用は市が半額負担
2003年	平成15年5月	ゴミOクリーンデー 実施 毎年5月末の(日)に行うことを決定



桜植樹

2003年	平成15年11月	防災訓練 実施 起震車体験・三角巾・初期消火等習う(花見川消防署)
2004年	平成16年2月	自治会青年部メイン通りに桜(ソメイヨシノ)を植えることを発表 当初市当局は、こぶし以外の植樹に同意しなかったが、苗木は高山晴介氏が寄贈することで市の了解を得る。毎年メイン行事として桜花見の会を盛大に催し、自治会の年中行事の一つとなる
2005年	平成17年7月	千葉県立作新小学校 創立30周年記念 賛助金 796,500円贈る
2006年	平成18年5月	住宅用火災報知機設置 市条例により既存住宅に住宅用火災報知器の設置が義務づけられた為、希望者募集を募り、井口平内氏の努力によって多くの会員宅に設置された。 防犯パトロールの実施 空き巣・ひったくり等の犯罪が多発している為、自治会としても「自分達の町は自分達で守ること」をモットーに各地区毎に自主的に実施する。(現在は事業として実施) 年末年始、タイヤ館前にテントを設営し自治会として、特別防犯・防災パトロールをはじめめる。(現在は事業として実施)



桜花の会



さくしん花の会



2007年	平成19年10月	<p>さくしん 花の会 結成される</p> <p>「花と緑」の地域リーダー飛田勇氏から、メイン通りの緑地帯に花いっぱい活動を実施したいとの提案があり、自治会としても協力していくこととした。交番脇の緑地帯に花壇を作り、千葉市から運動が評価され表彰される。</p>
2008年	平成20年4月	年末年始特別防犯・防災パトロールの実施承認
	平成20年5月	<p>千葉市立天戸中学校 創立30周年記念</p> <p>賛助金 800,000円贈る</p>
2009年	平成21年4月	地区毎防犯パトロール実施承認
	平成21年6月	<p>自治会館補修工事 承認される</p> <p>8月中に実施 高橋工務店に依頼する。建物の塗装・広間の改装・玄関まわり及び空調設備の更新など、工事費5,729,000円で積立金から充当した。</p>
	平成21年7月	<p>花見川消防本部から表彰される</p> <p>住宅用火災報知機1,400個を、会員宅に設置したことが評価される。</p>
2010年	平成22年4月	『作新台——自治会40年史』発行

自治会が継続して取り組んでいる重点事項

・安心安全の町づくり

現在、各地域で自主的にパトロールを実施しています。自治会の理念としては「自主防災組織」を充実強化させることです。とは言っても犯罪を未然に防ぐには、会員自らが『自分達で地域の安全は守ろう』とする気持ちが基本です。お隣同志、日常声を掛け合って皆で守っていきましょう。

・地域の環境整備

ゴミ問題も漸く会員のご協力によって軌道に乗ってきましたが、まだまだ不法投棄があとを断ちません。

また、所によっては暗い通りもありますので街灯の充実をすすめます。
そして明るく美しい町づくりに各種施策を充実してまいります。

・自治会組織を全員で守り維持していきましょう

会員の高齢化によって、毎年役員を選任にご苦労されているのが実態です。各地区各班の中で、よく話し合い助け合いの精神で後任を選んでいただきたいと思います。

自治会活動は、地域の活性化運動の原点です。この組織をすべての会員が協力し合い、守り維持していくことが、明るい町づくり・活力ある社会に繋がっていくこととなります。

今後も自治会活動に、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

参考資料

会館の建て替え（平成4年）

高橋實自治会長から、「現在の会館は昭和47年に建設したもので、20年近く経過しています。新しい会館を建設したい」旨の表明がありました。

資金状況

県・市の補助金	800万円
積立金	500万円
寄付（有志）	315万円
全会員の寄付	1,300万円
計	2,915万円

平成4年11月完成（施工 細貝工務店）

自治会組織の法人化（平成10年）

地方自治法が改正されて、自治会組織も一定の条件が整えば法人組織とすることができるようになりました。

自治会を法人化した場合のメリットは、自治会が所有する不動産を自治会名義にできることです。

当時は、自治会所有の土地・建物は高橋實会長・佐藤春夫副会長・細貝義昭交通部長の3名による共有となっております。これらを自治会名義に変更することによって、自治会が存続する限り安全に維持管理されていきます。

この法人化の手続きには、自治会全員の賛成、自治会の規約改正・それに伴う細則の変更・最終的にはこれらの手続きを経て、千葉市長の認可が必要となります。

以上の事務手続きについては、自治会相談役の金子正康弁護士にお願いしたところ、ボランティアで快くお引受けいただきました。金子弁護士には、大変なご苦勞をおかけしましたが、平成10年2月22日法人化のための創立総会を開催できる運びとなりました。

- 総会は
1. 自治会組織の法人化
 2. これに伴う規約の改正
 3. 財産目録に記載される資産名義を自治会とする

などについて 全員賛成をもって承認されました。

ただちに千葉市長に対し、関係書類を提出し平成11年3月の市議会において承

認され、名実ともに法人化が実現し、自治会事務局も土地・建物の名義を作新台自治会に変更登記しました。

以後の自治会運営には、会員一人一人が選挙権を基本的に持つことになりました。その後の総会の運営・選挙の方法などについては、規約細則を改正し、遺漏ないように対処しております。

夏祭りの復活

夏祭り盆踊りがよみがえりました。

永い間、会場を転々としながらも、夏のお祭りとして親しまれてきた盆踊りがマンネリ化し、このままでは中止も考えられるようになり、来年こそ盛大によみがえさせたいとの願いから、検討委員会を作ることになりました。

委員会で活発な議論を行い、次のような結論を得ました。

1. 福引を実施する。そのための経費を30万円計上する。
2. 管内有志及び近隣町会等に招待状を出す。
3. 夜店を出す。
4. 地区長全員を役員とし、自治会一体となって取り組む。
5. 祝儀を頂いた方には、来賓席で接待する。
6. 事前のPRを徹底する。
7. 役員は全員Tシャツを着用する。(現在は半纏)
8. 各種物品は、地元業者を利用する。
9. 近隣の行事とダブっても気にせず負けないような内容で頑張る。
10. 大人も子供も気軽に踊れる曲目・その他工夫する。



実行委員会で細部にわたって打ち合わせが行われ、その結果見事に大成功し、花見川界限では有名になるほどの立派かつ盛大な盆踊りが出来上がりました。

毎年8月第1土・日曜日は、作新台公園に1,000名を超える人で賑い、作新台自治会の一大イベントとなりました。

文化祭（自治会承認サークル関連）

自治会発足後、青年部が中心となって各部が協力、一般会員から作品を募集して文化祭を実施していましたが、途中中断しました。

会館が新しくなってから自治会行事として、会館が自治会会員の身近なコミュニティの場として、気軽に利用してもらえるようになりました。また、その一環として自治会が音頭をとってサークルの育成にも力をいれました。

具体的には、自治会が承認したサークルには、会館を無料で利用でき、現在では27を数えるまでになり、僅かではあるが資金的な補助もしている。

これらのサークルが、日頃の練習の成果を発表してもらう場として、11月3日の文化の日に、会館に一同が会して、文化の向上に役立ててもらおう行事がようやく軌道に乗ってきました。

今日まで、総務の中田茂・高橋國男両理事及び細貝義昭交通部長等が中心となって、コツコツと努力されてきた結果、当日は香り高い内容の行事が1日中賑やかに行われるようになってきました。

会場いっぱい飾られた会員からの立派な作品・舞台上で繰り広げられる歌や踊



り、更には朝採りの野菜の即売から焼きそばまで、盛り沢山の内容で、自治会館は1日中賑わい、地域の活性化と地域文化の発展に大いに役立っております。

敬老会

高橋實会長から敬老の日に、敬老会を実施したいとの提案があり、作新小学校体育館において、平成2年9月に民生委員主催・自治会協賛（現在は、自治会主催・民生委員協賛）という形で実施することになりました。

当日は70歳以上の該当者226名中105名が参加し、本部役員（現在は全地区長含む）を動員し、盛大に挙行されました。

平成4年からは、自治会館が新しくなったので、会館において1日2回に分けて実施されていましたが、平成10年からは再び作新小学校体育館に戻ることになりました。これは高齢化社会を反映して、参加人数も増加し最近は該当者数770名近く、参加者も215名位になっております。

自治会単独でこのような敬老会が出来るのは、大変めずらしく近隣から羨まれております。

当日は10時に開演し、花の会会員製作のテーブルフラワー等で飾られた会場で、2時頃まで自治会サークルの漣太鼓・コーラス・民謡・舞踊・フラダンスやカラオケなどを楽しみながら、敬老の日を皆で祝っております。



各部紹介

「総務部」

1. 作新台納税組合

作新台納税組合は、自治会組織の一環として存在し、市の納税意識の高揚に協力し、市からの補助金は自治会予算に納入されてきましたが、平成20年度をもって打ち切りとなりました。

会員は約400名おり、固定資産税や市民税などを取り扱い会員の協力を得て納期内納付は95%に達しております。

2. 作新台自主防災組織兼防犯部会

平成7年1月の阪神淡路大震災を契機に防災意識が高まり、平成14年4月に自主防災組織として「作新台防災会」が立ち上がりました。

当組織は、役員・各地区各班1名ずつの防災防犯連絡員・消防連絡員を中心に、会員一丸となって、ますます進む高齢化社会をにらみ、地域全体で訓練やシミュレーション等を実施し、近い将来80%の確率で発生が予想されている大地震に備えて行きます。

また防犯部会においても、近年多発している空き巣・車上荒らし等の犯罪を阻止することを目的に現在次のパトロールを実施して居ります。

1. 地区毎に毎月1回以上の防犯パトロール実施
2. 年末年始自治会全体の特別防犯・防災パトロールの実施

これらのパトロールを通じて地域の連帯意識が高揚することを願ってやみません。

3. 事務局（組織全体の取りまとめ）

自治会主催の年間事業について、企画・立案・各部門の連絡・調整を行うとともに、それに伴う予算を統括します。

又、会員の会費徴収・転出入・慶弔などの管理を行うとともに、関係機関からの広報書類の周知・及びサークル活動の育成・その他、他部に属さないすべての事項を担当します。

以上の事項に関する事務は、全て事務局が一手に引き受けて、自治会の円滑な業務運営に当たって居ります。

事務局は、火・木・土曜日会館に常駐しております。

「福祉部」

福祉部の主な活動としては、つい最近までは自治会員に不幸があったとき、その葬儀を施主に代わって葬儀全般を取り仕切ることでした。

このことは、地区長初めとして、大変な仕事で自治会としても「マニュアル」を作って対処してきたところですが、管内にセレモニーホールができて、情勢は一変し自治会館利用することも殆んどなくなり、時代とともに福祉部の役割は大きく変化しました。

現在の活動は、敬老の日に敬老会を実施することです。

年々高齢化が進み、管内の70歳以上の方々は700名を超えるようになりました。

福祉部の役割も高齢化の進展とともに変化し、かつ多様化しその重要性は益々高くなっていくものと思われれます。

また福祉部は、環境問題にも取り組んでおります。

「交通部」

昭和48年1月交通安全協会作新台分会が結成されました。

その後、昭和50年4月千葉中央安全協会作新台支部に昇格し、更に昭和55年2月千葉西警察署が新設されて、千葉西安全協会に所属し、現在は千葉北警察署管内となっております。

会員は約20名で構成され、細貝義昭交通部長を中心に精力的に活動を展開しております。細貝義昭氏は自治会発足時から現在まで、町の交通安全対策に従事され、立派にその使命を果されております。

賛助会員は、管内の有力企業を中心に25社となっております。

事業としては、年間を通して春秋の交通安全運動に呼応して、通学指導・街頭監視・広報活動を実施し、更にあらゆる機会をとらえて安全教室・研修会・交通標語公示・夜間パトロール・交通指導・記念品贈呈・交通標語点検など積極的に実施しております。

また地域に根差した活動として、自治会行事に伴う交通整理・千葉市や花見川区の主催する祭りやイベントに参加し、地域における交通安全対策に協力し、その実績は高く評価されています。

当交通部が関係機関から特に注目されている点は、千葉北安全協会作新台支部として、独立した組織であることと、自治会組織の一員でもあることです。

このことによって、より高度な且つ地域に密着した交通安全運動が展開され、ひいては地域住民の交通安全に大きく貢献しているのです。

「青年部」

自治会発足1年後に初めは「若潮会」としてスタートしました。

当時は新築住宅が次々と建ち、隣同士も新顔の人ばかりで、地域のコミュニケーションの充実が自治会としては急務でありました。比較的若い人の家族も多く、子供達を通して一同に会する行事として、張りぼてやおみこし等

を若潮会の会員が、自作自演をして年1回約10年間町中を練り歩き、楽しいお祭りを続けてきましたが、次第に少子化傾向もでてきてお祭りは中断しました。

その後「青年部」と改称し今日に至っております。

自治会主催の各種行事・人手を伴う組織的運營業務は、全て青年部が主体となって自治会活動が行われております。

特に夏祭り行事は、青年部の組織の総力をあげて取り組んでおり、その出来ばえは千葉市の中でも有名で、毎年市長が参加されお褒めの言葉を頂戴する程であります。

近年、青年部の大きな課題として次代を担う若手メンバーの育成であり、地域の活性化運動の中心的役割を維持して行く上で、若い人に是非入部されることを希望しております。

「婦人部」

婦人部は、昭和47年8月結成されました。

対象は、自治会会員で20歳以上の婦人が対象となっております。

役員は、毎年各地域・各班から1名選出され、その中から3名の本部役員が決められます。

行事としては、毎年恒例となっているバス旅行があります。その他講習会などを企画しております。

また自治会行事には、役員全員が交代で参加し、その認識と役割を十分発揮し活動しております。

時代の変化とともに、家庭の主婦の立場も多忙を極め、地域活動への参加もままならない昨今ですが、当婦人部は自治会活動の本質とその伝統をよく理解され、役員全員で助け合い・協力し合って、婦人部としての組織を守っております。

「児童部」

児童部は、地域の子ども達の健全な成長を願って、昭和46年に結成されました。児童部は、自治会組織に所属しておりますので、児童部の行事には自治会員の子どもなら誰でも参加する事ができます。

自治会には様々な“部”が活動しておりますが、子どもが地域の活動に参加するのが、その子の地域活動の第一歩となるもので、良い仲間づくりや子供時代の思い出づくり、また明るい地域作りに大変意義深い活動といえます。

主な活動には、自治会夏祭りの子供ゲーム大会と模擬店での焼そば作りと販売。年末のお餅つきなどがありますが、その他、子ども会行事で土気の昭和の森で行われる千葉市子連主催の春の「遊びの王国」や「夏季キャンプ」などがあります。

部長の藤本純男氏には、地元で郵便局経営のかたわら、地域の青少年育成に20年にわたり尽力されております。

※子ども会：任意加入で、千葉市子ども会と花見川区子ども会に所属しており、千葉市教育委員会の指導、助成の元で活動しております。

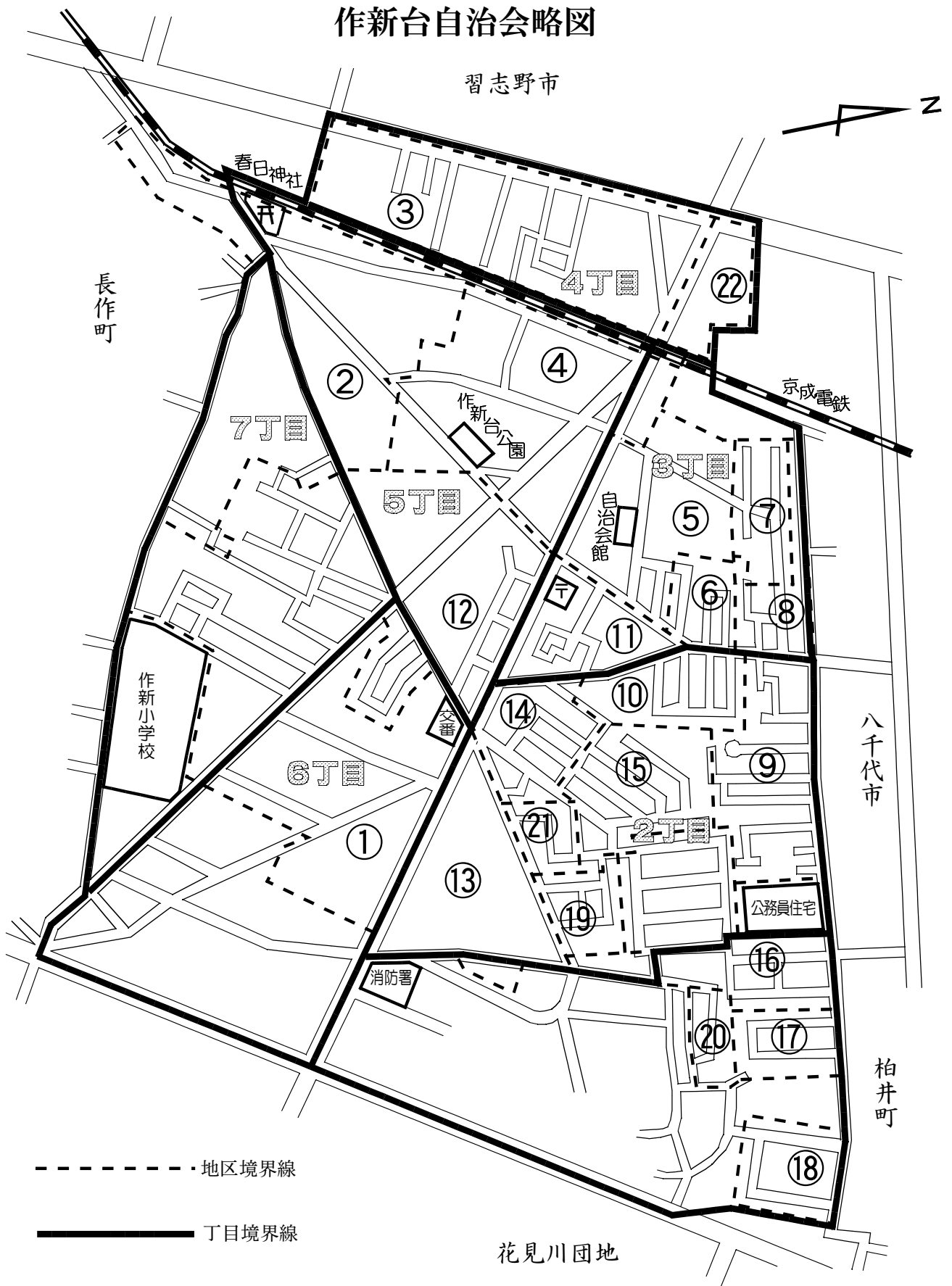
サークル一覧表

	サークル名		サークル名
1	整美体操	15	高砂会歌う会
2	民謡同好会	16	囲碁将棋同好会
3	ヨーガ	17	カラオケ同好会
4	パッチワーク	18	高砂会手芸
5	手作り同好会	19	翠琴会（大正琴）
6	書道（かな）	20	作新俳句会
7	コールメリー（コーラス）	21	書道（漢字）
8	気功	22	まつみ会（民謡）
9	漣太鼓（タイコ）	23	フラサークル・カトレア
10	生花（草月流）	24	さくしん花の会
11	作新クラブ （バレーボール）	25	絵画
12	高砂会	26	作新リコーダークラブ
13	高砂会ユニークダンス	27	さくしんパソコンクラブ
14	高砂会ゲートボール		

歴代自治会長

会長名	在籍中のできごと
萩原 寛輔氏	<p>昭和45年8月～56年3月 (副会長 長谷川 清氏)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上水道（県水）が全家庭に引かれた。（昭44年） ・下水道（昭和45～58）工事が全地域で完成 ・3自治会の合併（昭45年） ・東京ガス（昭46～昭56）工事が全地域で完成 ・自治会館の建設（昭47） ・作新小学校開校（昭51）
長谷川 清氏	<p>昭和56年4月～平成2年3月 (副会長 佐藤 春夫氏・高橋 實氏)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作新台公園開園（昭60） ・千葉作新台郵便局 開局（昭61） ・全地域で住居標示実施（昭62） ・公共下水道（生の雑排水）工事（昭63） ・住宅地内の側溝つき完全舗装化（昭63） ・花見川道路が都市計画として緑地帯（コブシの木）つき完成（平1）
高橋 實氏	<p>平成2年4月～現在に至る (副会長 佐藤 春夫氏・星野 昇平氏)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会が行う葬儀マニュアル作成（平2） ・敬老会実施（平2） ・自治会館（全会員の寄付）建て替え（平4） ・サークル活動の普及（平5） ・文化祭の開催（平6） ・自治会組織の法人化（平10） ・自主防災組織の設置（平14） ・年末年始の防犯パトロール実施（平18） ・自治会館補修工事（平21） ・『作新台——自治会40年史』発行（平22）

作新台自治会略図



地区・班一覽表

No.	地区名	世帯数					
		1班	2班	3班	4班	5班	6班
1	1A	25	18	19	20		
2	1B	26	26	21	22		
3	2A	17	25	27	27		
4	2B	20	29	21	14	17	
5	3	11	30	14			
6	4	16	25	23	29	30	14
7	5	20	26				
8	6	17	25				
9	7	25	20				
10	8	26	24	17			
11	9	26	16	33	37		
12	10	31	19	22			
13	11	20	15	20			
14	12	13	27	22	30	24	
15	13	37	21	30			
16	14	21	28	27			
17	15	21	21	23			
18	16	38	33	35			
19	17	16	17				
20	18	15	16				
21	19	16	16				
22	20	18					
23	21	16	14				
24	22	21					

合計 1,622世帯
(平成21年10月31日現在)

編集後記

10年近く前から、故長谷川会長の残された資料などを参考にして、作新台自治会の沿革史を作ろうという話が持ち上がり、紆余曲折を経て、事務局の充実や、自治会発足40年目を迎えて、漸くここに日の目を見ることが出来ました。

いざ、まとめてみようとする、ほんの歴史のヒトコマであっても、生活施設の実現など住みよい町づくりに、努力された方々の功績などについて、正しく公正に記すことのむずかしさに気づきました。

年年歳歳“花相似たり人同じからず”40年の歴史の中に登場する方を洩れなく拾い上げよう、と私なりにこころみました。

しかしながら人の見る目は、10人10色です。正しく記録されたかどうかは、会員の皆さんのご判断になると思います。

20年以上前にピッシリと克明に書かれた、いわゆる“長谷川メモ”を解きほぐし要約する作業をしながら、ふと生前の長谷川さんと会話したことを思い出しました。

これからは活字の時代になるから、「自治会もワープロを入れましょう」と、私から進言させてもらったら、長谷川さんは早速現物を見に行かれたようで、“あれは面倒なものだ。書くのが一番だ”とおっしゃって、80余歳の老人はすぐにOKを出しませんでした。

何はともあれ40年間の出来事を、まがりなりにもまとめ上げましたが、編集委員の井口・加藤・高林・奥田・高橋の諸氏には、大変なご苦勞をかけてしまいました。

また佐藤春夫前副会長には、まえがきを始めご意見やアドバイスをいただき、更に私ども編集委員を元気づけてくれる、はげましのお言葉を頂戴し深く感謝しております。

この『作新台——自治会40年史』が会員の目に止まり、読後の感想やご意見などお聞かせいただければ、今後の自治会活動に生かしていきたいと考えます。

平成22年4月 編集長 星野 昇平

作新台——自治会40年史

発行日 2010年4月1日

発行者 千葉市作新台自治会会長 高橋實

千葉市花見川区作新台3-5-27 作新台自治会館内

電話 043-257-3537

編集担当 星野昇平 井口平内 加藤寿美子 高林宏子 奥田都茂子 高橋美恵子

印刷・製本 (株)まんぼう社

